

それは、 1400万年前にも遡ります。

滯迫峡は、大野川支流「奥岳川」により形づくられました。阿蘇山が9万年前に引き起こした超巨大火碎流によって谷は埋められてしましましたが、川の流れは再び岩を削り深い谷をつくりました。

奥岳川は、祖母傾山系の豊かな自然林を源とするため、青く澄んだ渓谷となっています。その渓谷の底には、9万年前の阿蘇溶結凝灰岩やそれよりはるかに古い1400万年前の祖母山系火山岩類などがあり、地球の長い歴史と美しさを体感することができます。

1 滞迫峡の大岩壁

奥岳橋の下流には、高さ約70mに達する阿蘇溶結凝灰岩の絶壁が切り立っています。この壁には、柱状節理（柱状のひび割れ）が縦に長く入っているため、柱が倒れるように壊れます。そのために垂直な切り立った壁ができるのです。

この渓谷には阿蘇溶結凝灰岩の他に、約1,400万年前の火山活動で噴出した祖母山火山岩類の丸みを帯びた岩肌も各所に顔をのぞかせています。阿蘇溶結凝灰岩の柱状節理と祖母山系火山岩類の岩肌が絶妙な対比を見せており、青くすんだ水流とともに渓谷美を描き出しています。



2 樹皮の印象化石

写真（上）は、溶結凝灰岩に残された木の皮の印象化石です。火碎流に巻き込まれた木は押しつぶされ燃えてなくなりますが、皮の模様は火碎流が固まった岩にのこされます。滯迫峡では、あちこちで木の皮の印象化石が発見されています。

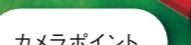
また、木が完全に燃えてしまわずに炭化木になったもの（写真下）もたくさん見つかっています。



凝灰岩に残された
木の皮の模様



炭化した木



カメラポイント
柱状節理を間近に
見ることができます。

溶結凝灰岩

溶結凝灰岩は、火碎流が冷えて固まったものです。9万年前に阿蘇山が4回目の大噴火を起こし、九州のほとんどは火碎流で覆われました。この時できた溶結凝灰岩を、阿蘇・4溶結凝灰岩といいます。数百度を超す火碎流堆積物は厚く積もり、自分自身の持つ熱で溶けてしまいます。その後、徐々に冷えていき、岩となります。溶けたのちに再び固まるので、溶結凝灰岩といいます。

火碎流

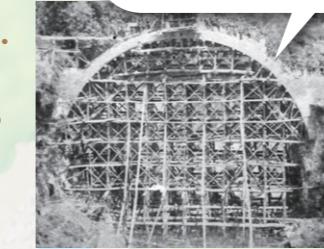
火山が噴火したときに、火山ガス・軽石・溶岩・岩片などが入り混じった高温の物質が、大量に空中に噴き上がることがあります。高温の物質が落下し、火山周辺の地表面を覆いつくしながら流れ下る現象を、火碎流といいます。

柱状節理

液体が冷やされ、個体に変わる時、収縮し田んぼのような地割れが縦方向に伸びることがあります。柱のような割れ目のため柱状節理と呼ばれます。

4 犬返橋

おがたまちおはる たいざこきょう
大正14年に完成しました。深い滯迫峡を渡る
石橋ができたことで、滯迫の人々は歓喜しました。
大正11年に豊肥線諸方駅が開業したことが、
石橋建設のきっかけになっています。



建設中の轟橋、
アーチを組む様子が
よくわかる

3 奥嶽橋

奥嶽橋は、滯迫峡（奥岳川）に架かる鉄橋で、高さ75m、幅7m、延長170m、アーチ高28mです。平成13年に完成しました。建設の目的は、幹線林道宇宇木～小国線を結ぶためです。

奥嶽橋は、「下路式平行弦ニールセンローゼ橋」という型式です。

下路式平行弦とは、平行に渡された2本のアーチの下側に通路をつくることです。ニールセンローゼとは、アーチと道路を斜めに張ったケーブルで結ぶ構造をいいます。



阿蘇火碎流の
流路イメージ図